

# 1人1台 タブレット学習、始まる

昨年の学校休業で学習の遅れが心配される中、子どもたちへの支援は不可欠です。令和2年10月から市内の小・中・特別支援学校で、1人1台タブレット端末を配備。授業のICT化を進めています。機器の配備と生徒に合わせた指導で、学校内に限らず学習を多面的に支援していきます。

問い合わせ 教育支援センター 072(758)8680



今後はICTを活用できる人材が活躍

今や、ほとんどの家庭や仕事場にパソコンがある時代となりました。今後の社会で活躍するためにはICT（情報通信技術）を活用できる力に付けることが必要です。市では、小・中・特別支援学校で1人1台のタブレット端末を使用する環境の整備を開始。令和2年から4年間で導入する予定でしたが、コロナ禍が教育に与える影響を考え、時期を早めました。

ICTを教育に導入することによって、さまざまなメリットがあります。

例えば、個人の学習履歴を記録できるため、何をどんなレベルで勉強する必要があるかを踏まえた個別学習ができるようになります。

また、画面をクラスのみなどで共有することで、教員と児童・生徒の双方向のやり取りが可能になります。

これらの取り組みは、知識をただ詰め込むのではなく、何が自分に必要かを考えられるようになることが目的です。情報はコンピューターが

蓄えてくれる今、基礎知識を生かして、主体的に物事を考えることが求められます。

授業中だけでなく自宅でも活用

今年度の冬休みには、全員がタブレット端末を自宅に持ち帰り、自宅でもICTを使って学習できる環境を整えました。

その時に出された宿題の中には、調べ学習もありました。タブレット端末でテーマについて調べ、レポートを作成。そのままデータで提出できるので、自宅で印刷する必要はありません。

今後、タブレット端末の学校外での使用を拡充する予定です。自宅でも効率よく学習ができるように、アプリケーションを活用。苦手な分野を分析した上で自動出題します。不得意な問題を集中的に解くことで、苦手克服を図ります。

将来、情報化社会がさらに進むことは避けられません。ICT教育で身に付けた学びを子どもたちが発揮できるように、継続して支援していきます。

## 情報化社会に適応できる人材を育成

明峰中学校教諭 小島由宇希さん

普段からICT機器を使い慣れている生徒とそうでない生徒の差が開かないように、基本的な操作方法から丁寧に教えています。

ICTが教育現場に導入されて、今まで紙や言葉で伝えていたものを、自分のタブレットで映像として見られるようになりました。視

覚に訴えかけられるので、学ぶことに興味を持ってもらいやすくなったと思います。

これからさらに進む情報化社会に適応できる人を育てていきたいです。今まで通りの学習方法とICTを両立させて、授業の質の向上に努めます。



## 授業に集中できる

明峰中学校2年生 宮本祐成さん

黒板ではなく、目の前にある画面を見て授業を受けられるようになったので、より集中できるようになりました。

調べたいことをすぐに調べられることが、良いところだと思います。



## 学習がより効率的に

明峰中学校2年生 木下瑛一朗さん

社会の授業は資料が多いので、タブレットに情報が集約されて、勉強しやすくなりました。

宿題のレポートをタブレットで作成して提出できることは、とても効率的でうれしいです。



目次 INDEX

02-03 **1人1台  
タブレット学習、始まる**

04-05 新型コロナによる学習の不安を解消  
**公民館で苦手を克服**

06-07 公共施設の開館時間短縮を決定  
**兵庫県に緊急事態宣言が再発出**

08-09 **今井病院移転案を選択**

10-11 **救急医療の現状**

12 **清和源氏まつりの出演者を募集**

13 **確定申告と市・県民税申告**

14-15 **市政情報トピックス**

16-23 **お知らせコーナー**

24 参画と協働の芽  
**子育て世代で  
家族の笑顔と思い出をつくる**

25 **食と育つ  
消費生活センターだより  
生きる**

26-27 **フォトニュース**

28 Kカルチャー  
川西エキマエ Online  
**新しいカタチの成人式**

最新の防災マップはWEBから確認

防災マップ（ハザードマップ）の最新版を市ホームページ（右の2次元コードからアクセス可）で公開。災害への備えとして確認してください。



問い合わせ 危機管理課 ☎ 072(740)1145

Memo

コーチング × オンライン

学習習慣の定着を支援

新型コロナウイルス感染症の影響などにより、公民館でコーチングが開催できない場合は、オンラインによる学習支援を実施します。自宅のスマートフォンやタブレット端末、パソコンから使用できる自己学習ツールも用意。コーチングとの相乗効果や自宅での学習習慣の定着を図ります。

また、参加した生徒は4月以降も1年間、進級・卒業後の学年のカリキュラムを映像授業で受講できます。



生徒をサポート。学習習慣の定着や学習意欲の向上を図ります。

また、コーチングスタッフが生徒の普段の学習時間や得意科目、苦手科目などを聞き取り、生徒個人に合わせて指導します。

**理解度を測るためのテストやアンケート**

期間中には効果測定のためのテストを用意。生徒の理解度を測り、アンケートなどで生徒の学習状況を把握し、進級・進学後に向けてサポートします。

コロナ禍が**学び**を変えるきっかけに

市長 越田謙治郎



昨年3月から5月まで約3カ月にわたる全校一斉休業により、多くの児童・生徒の大切な学びの機会が失われることになりました。学校再開後も従来と異なる学校運営を余儀なくされ、校外学習や各行事など体験の機会が大幅に縮小しています。

学びを継続するため、昨年12月には市立学校の児童・生徒を対象とした、1

人1台のタブレット端末の配備が完了しました。

また、家庭での学習支援として全学年に学習アプリを導入。休校や学校を欠席したとしても、学びを継続できる環境づくりを進めています。

これらの取り組みは、コロナ禍だけでなく、今後の学校運営においても有効です。児童・生徒は、より効果的で効率的な学習ができ、さらに学校以外でも学べるようになりました。

ICTで全ての学びを提供することはできませんが、コロナ禍が、今までの学びを変えるきっかけになると考えています。これからも日々環境は変わりますが、子どもたちの学びへの支援に重点的に取り組んでまいります。



1\_ 継続することが力になる数学と英語を中心に学習 2\_ 密を防ぐために生徒同士の距離を保って受講 3\_ 手指を小まめに消毒 4\_ タブレット端末に自分のカードをかざすと保護者に出席が通知される

**学習習慣の定着や学習意欲の向上をめざす**

10月19日から市内9公民館で「川西市コーチングによる学習支援事業」が始まりました。新型コロナウイルス感染症による学習への不安を解消することを目的としています。

対象は市内在住の中学生で、期間は3月末まで。土・日曜日、祝日の他、冬休みや春休み期間中など、原則20回の開催です。開催各日の午前中は中学1年生、午後は中学2・3年生で、各学年1回2時間です。12月末時点で、333人の中学生が受講しています。

スタッフ1人に対し、生徒2〜3人の体制で授業を進めます。生徒の理解度に合わせたコーチングで、継続的に生

新型コロナウィルスの影響による学習の不安を解消  
**公民館で苦手を克服**  
生徒の理解度に合わせて各中学校区の公民館でスタッフが指導  
自分の苦手な科目を中心に学習を進めることができます  
3月末まで継続的に勉強をサポートします

問い合わせ  
子ども支援総合戦略会議  
事務局(こども支援課内)  
☎ 072(740)1246

Voice

参加者と運営者の声

生徒個人に合わせた指導ってなに？  
学校の授業とどこが違うの？  
参加者と運営者の声を聞きました

自分のペースで勉強できる



参加者 清和台中学校1年生 玉木菜穂さん

コーチングが始まった時から参加しています。学校ではクラス全体で授業が進んでいくので、質問しづらい時があるんですが、コーチングでは分からないことがあるたびに教えてもらえるのでうれしいです。

今日は、数学の問題を教えてくださいました。文章問題の解き方を丁寧に聞けたので良かったです。苦手な教科に集中して勉強できるのが良いところだと思います。

コロナで外出することが少なくなりましたが、公民館に行くことがリフレッシュになっています。同級生と一緒に授業を受けられるので、一人で勉強するより励みになります。

普通の塾なら分からないままになってしまう単元も自分のペースで勉強できるので、今後もこういう場があれば参加したいなと思います。

生徒の皆さんの  
自信に



運営者 子ども支援総合戦略会議担当監 釜本雅之

この事業は、第一に学習への不安払拭が目的。しかしそれだけでなく、生徒それぞれの学習進度を基にプランを立て、自発的に取り組んでもらうことにより、計画的に勉強する方法を身に付けてほしいと考えています。定着すれば、生徒の皆さんの自信につながるはず。